

事例 薪ストーブ



「薪ストーブは暖かいよ」



お話を聞きした人

植月千砂さん / アースガーデン

南丹市美山町



アースガーデン



薪ストーブ

ここにこだわった“クリーンバーン”

購入当時は、まだ薪ストーブの情報が乏しく、また家の建築の事で精いっぱい、どのストーブにするのか選ぶことが難しかったので、店が人気商品だと言われるものを選びました。1つこだわったのは、クリーンバーンという二次燃焼システム。これで有害なクレオソートが減り、きれいな排気となります。また、煙突からの熱を全て外へ逃してしまってもったいないので、熱を2階で有効利用するための暖気口を2階に作りました。大工さんに作ってもらいましたが「暖気口のフタは自分で手作りしたのよ〜」。これで2階の部屋も同時に暖まります。

暖房、給湯、料理、見た目がきれい、この4つ

薪ストーブは、暖房、給湯、料理ができて加えて外見の良いものがあればよかったのですが、無理でした。実際は暖房機能だけの利用が多いですが、焼き芋、焼きリンゴなどストーブで作ると美味しいです。ナベに水と昆布を入れて、ゆっくりとダシをとることもできます。この辺りは針葉樹が多いのですが、燃えやすいためストーブが傷むみたいで、薪としての利用があまりできないのが不便です。購入した薪（広葉樹）は、2年以上保管して乾燥させてから使います。

煙突からスズメが入ってきた

「今年に入ってから2回もスズメが入ってきたのよ」ストーブの中で物音がするので、見るとスズメがいました。煙突にはネットが取り付けられてありますが、多分それがはずれたみたいなんです。

取材後記 ■ 水野 奈美

1階の壁のくぼみにこじんまりと薪ストーブが置かれています。山里はかなり冷えるので、やはり薪ストーブがピッタリだなと思います。ストーブの上にはかごに入った木の实があり、そこで乾燥させていました。元カフェだった1階は、スタディーアワーの講座、ワークショップのためのスペースです。ここで自然と調和した農的暮らしが体験できます。お話にうかがった時は、まだストーブがついていませんでしたが、とてもステキなところでした。

詳細情報

【機器の種類】

メーカー：JOTUL（ヨツール）／型式：F100BP
／購入年：2002年

【薪の種類】

広葉樹

【薪の入手方法】

地域の販売店（ハートカントリーストーブ、美山町森林組合）や知人から購入
（火付け用細枝、中細枝は剪定枝を活用し自給）

【薪の保管方法】

敷地内3ヶ所にて自然乾燥（2年以上）

【機器の使用期間】

11月末～3月初旬

【一冬あたりの燃料消費量及び燃料代】

約60束（23000～25000円）

【居住形態（戸建て or 集合住宅）】

戸建て